

S&L I
7

仙臺志(伊藤氏公孫和政)

仙臺領地名所和歌

陸奥山

通船

うらぶかたのふりさへよ今もさう
こゝ孫のふねとみらねのふ

末松山

惟通

11 10

015565

まふてふのてふ波をかんまふに
ふすまそそそそそそそそそ

秘蔵山 公長

くらわらふは流れをたてて下かき
おまていともてのふれおまて

宮城野 雅季

わらうともふまこいさうく文城乃
木乃あまの神よ涼き

美濃堂原 藤元

音乃うらふまひくふれこも

いさみくすきのまねくやう

宗古を周 實積

ふれい今を説く此のまうとを

ふくそつ開ちん志よふふひて

緒絶揚 為綱

まじりのまうねほちもひん

ふくえりうこれ今朝のしら

玉達を 經音

あしを今玉達にまうの朝

ふくしりつをくみして採ふ

若丸川

有友

六月五日とあるが、まことに若丸川
うさぎやうらじ波の埋木

玉河

惟永

まじ月と文の形回乃玉河小

とりつねふるまうとをきく

衣河

光榮

まじくあつらへにうせ河衣川
うさぎあつらへる小流とえん

河衣限河

公野

その世よめふら河の舟人
わたりはるる海の色川を

奥海より 通夏

志まふたつとさいはくふたの海や
ゆふふとよもるなるもはく

十府浦より 實臨

波あつらふか川流と流るる風の
舟ふたつたつとよもるす

塩竈浦より 豊忠

舟よりさるる舟はびるる舟は

たうりふかめいあうぬふくう後

松島

為信

おし海やうしもみ林を月影小
花自わら波のうらむとてそそ人

夷夏小詩

實岑

波あらしうらみの小詩乃て風小
う後とあてこしくそ人のう

松島浦詩

資時

ふのうらしむきあておううう詩小
いふいせをぬいのよきううん

神渡

為久

得いぬぬ病ふふたをいぬ
そそれりつり波いぬすか

武隈松

通誠

歳とせうふりかうてふひのあ

まじき二本はうんすん

予嘗撰封內陳跡勝地共
名尤著者清冷泉為洞鄉
以出題需知欵于公家諸
君各詠一首自筆短冊購
為一帖云

予嘗撰封內陳跡勝地共
名尤著者清冷泉為洞鄉
以出題需知欵于公家諸
君各詠一首自筆短冊購
為一帖云

正徳龍集壬辰孟夏之日

蘇恭翰一首在道中將台村藏

此出題書也於下公海齋

或亦嘗書所叙以爲因似

中書蘇桂曰朝初觀也

鹽松八景

塩電浦松 從二位實隆

少皇舟乃波のほかてとかくて京

よりやふふれうまふる海

雄鴻統雁 正三位通茂